

京都シェアワセ運ぶ情報誌の 577 2019年 4月 福祉

Contents

- 社会をひとつにつなぐ、スポーツの力
～パラ・パワーリフティングを通して
インクルーシブ社会を目指す～
- 職場の人材育成を支援する
スーパーバイザー養成研修
第7回 きょうと地域福祉活動実践交流会
夢中！熱中！ふくしびと



もえぐさ ちようど新年度の計画づくりの最中のこと、本会の研修会でお世話になった尾野寛明さん（エココレッジ代表）のレジユメに目がとまった。こんな内容だった▼山積する地域課題↓あれが大変だ、これが大変だ↓じゃあ課題を把握しよう！計画をつくらう！↓企画ができた！補助金取れた！（この辺で何かがおかしい）↓で、誰がやる？↓みんな下を向く（だってみんな忙しい）↓目的の曖昧なイベントに苦しみ▼こうならないために、尾野さんは、課題を持ち寄るのではなく、「こうしたい」を持ち寄ることを薦めている▼とここで、「こうしたい」を持ち寄るためには、一人一人が自分の「こうしたい」を持つことができ、安心して話せる環境が必要だ▼グーグル社の研究によると、意見を否定されたりしない心理的安全性が高く、メンバーの発言量が同じチームほど仕事がうまくいくという。また、『ゆっくり、いそげ』の著者影山知明さんは「自分のありのままをさらけ出しても、受け止めてもらえるという安心感があれば、人の中に眠るアイデアや想像力はどんどん引き出されていく」と述べている▼違いを認め合い、安心して意見を言える関係が、生き生きとした仕事につながるということだ。その関係づくりは、まずは自分がメンバーの思いを受け止めるようになること。つまり「自分が変わる」ことから始まるのではないだろうか▼さあ、新年度。本会では第5次中期計画を策定する。みんなが「こうしたい」を持ち寄ることができるよう、関係づくりも大切にしたいと思っている。

（下）



16歳のパワーリフター

競技歴1年半、森崎可林選手の世界への挑戦

昨年10月に、日本代表としてアジアパラ競技大会（ジャカルタ）に出場した高校1年の森崎選手。女子67kg級で50kgに成功し、5位という成績をおさめました。「とにかく楽しかった。選手村での生活もいい経験になりました」と笑顔で振り返ります。森崎選手は2017年度のアスリート発掘事業「ジャパン・ライジング・スター・プロジェクト」の第1期生です。そこでパラ・パワーリフティングと出会いました。「急に体の大きな人が来て、体験しただけで言われて……」。彼女に声をかけた人こそ、JPPFの吉田理事長だったのです。



森崎可林選手

練習を始めてわずか3カ月で日本選手権デビューを果たしたことは、当時のニュースになりました。NTCが京都にあり、滋賀県在住の彼女にとって競技を続けやすい環境があったことも大きなポイントでした。現在、NTCには毎週通い、トレーニングを実施しています。同じくNTCで練習する、憧れの先輩である男子107kg級の中辻克仁選手からもアドバイスを受け、汗を流します。

アジアパラ競技大会後は、日本をサポートする世界的指導者のエイモスコーチのメニューに取り組み始めました。これまではまた違う内容で、「筋肉痛が3日間続くようになりました」と笑う森崎選手。練習ではより重い重量を挙げられるようになり、2月の全日本選手権では自身を持つ日本記録を一気に5kg更新する55kgに成功しました。「4月のチャレンジカップ京都でさらにこの記録を超えたい」と話し、自己ベスト更新に意欲を見せています。



吉田寿子事務局長

積極的に体験会や選手発掘事業に取り組んでいます。

「この2〜3年で、パラ・パワーリフティングを知る人の数も増えてきました」と寿子さん。また、日本人選手の考え方も時代とともに移り変わって

きたといえます。「シドニーの頃は、足が動かなくなってしまったら、家に引きこもっていた時代。パラに出場した選手が現地に行って『みんなイキキしてる！』とびっくりしていたほどです。それが今は、入院中から『じゃあ次はパラに挑戦だ！』という人もいます。極端な例かもしれませんが、変化を感じます」

「筋肉で日本を盛り上げよう！」

日本の社会に目を向けると、駅のエレベーターが少なく不便だったり、街

で困っている人に声をかける人が少なかったりと、「共生社会」の在り方は世界と比べると遅れていると言われます。寿子さんは、「パラリンピック発祥の地」と言われるイギリスのストーク・マンデビル病院を訪問した際、障害がある子どもと健常者の子どもが当たり前に一緒に授業を受けている姿を見て、「共生」と言っていること自体、障害を意識しているということだ」と感じ、「我々は、共生社会、じゃなくインクルーシブ社会」を目指さなくちゃいけない」と、強く思ったそうです。

「スポーツにはその社会を変えてい

く力があると思えます」と進さん。京都府内でも徐々にその動きが活発化し、16年に発足した京都スポーツ・障害者スポーツ推進協会が障害者スポーツの講演会を開いたり、国内トップ選手が集結する「チャレンジカップ京都」の開催をサポートしたりと、市民が障害者スポーツを身近に感じる機会が増えています。

「まだ道のりは長いけれど、少しずつ前に進んでいます。筋肉で日本を盛り上げよう」と、進さんと寿子さんは笑顔を見せます。力強いその言葉に、確固たる信念が見えました。

◀ トレーニングフロアの様子



▲ 1月19日、サンアビリティーズ城陽で開催されたミニ講演会と体験交流会。パネリストの①宇城元選手②中辻克仁選手③西崎哲男選手④中嶋明子選手

東京2020オリンピック・パラリンピックの開催まであと1年半。障害者スポーツも徐々に注目を集め始めています。スポーツ活動がさかんな京都府は、約30年前から全国車いす駅伝競走大会を開催するなど、積極的に障害者スポーツに関わってきました。2016年7月には、パラリンピック正式競技のパラ・パワーリフティングのナショナルトレーニングセンター（NTC）競技別強化拠点施設に、城陽市の府立心身障害者福祉センターの体育施設「サン・アビリティーズ城陽」が選ばれました。隣接する附属リハビリテーション病院の医学的サポートも実現し、充実した環境でトップ選手が強化に励んでいます。NPO日本パラ・パワーリフティング連盟（JPPF）発足後は、パラリンピックにシドニー大会から継続して代表選手を送り込んでいる日本。その歴史の礎を築いてきたJPPF理事長の吉田進さんと事務局長の吉田寿子さんに、これまでの取り組みや共生社会への想いを聞きました。

二人三脚で始めたパワーリフティング

パラ・パワーリフティングは、下肢障害の選手たちによるベンチプレス。鍛え抜いた上半身の力だけでバーベルを持ち上げ、重さを競います。下半身の力は使えませんが、世界ではイランの男子最重量級の選手が300kg以上を挙げ、その記録は同じ条件下における健常者の記録を超えています。

パラリンピックでは観客席が満員になるほどの人気競技のひとつですが、日本での認知度は決して高くありません。進さんと寿子さんは、障害がある選手がこの最高峰の舞台を目指すため、20年にわたってサポートし続けています。

選手の声を受けて連盟を設立

健常者のベンチプレスの大会は、進さんの提案で世界に先駆け日本で開催されるようになります。その後、世界へと広がり、大会のなかには障害者部門が作られました。しかし、ルールの変更により、車いすの選手は試合に出場

できなくなってしまう。選手から「我々にはチャンスがないんじゃないか」と相談を受けたふたりがさっそく調べてみると、パラリンピックの正式競技であることが判明します。実は1964年の東京大会から採用されていたが、当時は「ウエートリフティング」として実施されており、進さんたちも知らなかったのだといいます。

そこからふたりは、99年にJPPFを設立。2000年シドニーパラリンピックに初めて代表選手1人を派遣し、その後もアテネ、北京、ロンドン、リオ大会と毎回日本人選手を送り出しています。しばらくは健常者の連盟の仕事もしていましたが、東京パラリンピック開催決定を機に、JPPFの仕事に専念。トップ選手の強化のみならず、競技人口の増加を目指し、全国で



吉田進理事長

社会をひとつにつなぐ、スポーツの力

パラ・パワーリフティングを通してインクルーシブ社会を目指す

職場の人材育成を支援する スーパーバイザー 養成研修

福祉現場での教育・研修体制について「具体的にどう指導していいかわからない」との声も多く、人材育成をすすめる職員の育成や支援が求められています。人材育成を担う職員を育成するため、今回紹介する「スーパーバイザー養成研修」のほか「OJTリーダー」「職場研修担当リーダー」の3つの研修を実施しています。本研修における「スーパーバイザー」とは、職員に対し、指導・教育・評価などを行う役割を担う人のことをいいます。

全職場の人材育成を支援する スーパーバイザー養成研修

社会福祉施設・事業所にとって、福祉人材の確保・定着・育成は焦眉の課題です。京都府社会福祉協議会（以下、「本会」という）でも第4次中期計画（2015年度～2019年度）の柱の一つに、その課題を掲げています。学生や未経験者が職場を選択する際の大きな指標の一つが、「就職後の人材育成の体制」です。求職者に選ばれる事業所になるためには、人材育成を進める職員の育成が不可欠です。また、職員が退職する理由の大きな一つが、「職場の人間関係」です。



研修名	研修のねらい（主な内容）
スーパーバイザー養成研修	スーパービジョンを職場支援体制として活用できる援助技術と位置づけ、スーパービジョンの基礎的知識や技術を学ぶことにより、福祉の職場の人材を支え育成するリーダーを養成する。
中級スーパーバイザー養成研修	施設内のスーパービジョンシステムの確立をめざし、スーパーバイザー養成研修を修了したものを対象に、事例検討等を学ぶことにより、中核的な福祉人材の養成を図る。
上級スーパーバイザー養成研修	スーパーバイザーを育てる技術を学び、組織を動かすスーパービジョンを身につける。

職場の中で、一人一人の職員が認められ、適切なアドバイスを受けられる環境を作れば、人材の流出は避けられます。本スーパーバイザー養成研修では主にリーダー層や指導的立場の職員が受講し、他の職員に対し、自ら方針を決定、行動し、その結果や成果に責任を持てるように支援する方法

を学びます。本研修の講師は、平成22年度から眞辺一範氏（株式会社ふくなまジャパン）にお願いし、延べ245名（193施設）が修了されています。研修は、初級（毎年開催、中級（隔年開催）、上級（4年毎に開催）と段階的に学ぶことができるよう設定されています。

研修後の修了者の姿

もう一つの大きな特徴は、受講修了後に、「演習補助者」として研修に参加し、フォローアップができることです。毎年多くの修了者が「演習補助者」として、後輩受講者をスーパーバイズしています。実践の場で気づいたことを受講者に還元するなどの支援を通して、自分自身が大きな学びを実感しています。また、上級

スーパーバイザー養成研修修了者が研究会を立ち上げ、自主的にフォローアップ研修を実施するなど、自主研修（SDS）を通して、人材育成の底上げを図る役割も担っています。本研修で学んだことを実践し、発展させていくことで、各福祉職場のOJTが更に進むよう期待しています。

「学びと実践の繰り返しで知識と技術を習得する」実践プログラム

本研修の特徴として、きめ細かな対応ができるよう受講定員を20名と限定し、約1カ月に1回ずつ合計4日間の日程で実施されます。受講者は、研修日に人材育成に必要な技術や理論を学び、1カ月後の次の研修

日までに、「職場や地域、家庭の中で毎日1回以上「具体的に褒める」を実施する」といった実践的な課題に取り組みます。「どのように実践したか、実践による効果や影響などを簡潔にレポートにまとめる」ことを繰り返し、効果的に知識と技術を習得し修了していきます。

修了者からは、「実践課題があることで研修期間中に常にスーパービジョンを意識できた」「自身のスキルが高まっているのを感じる」「今事業所で抱えている課題に直結する内容だった」「受講前と比べて行動が変わった。自ら考え行動する力がついたと実感している」等の感想が寄せられています。

福祉職員の資質向上を目指して

今後本研修を通して福祉・介護人材の定着・育成を推進し、効果的な研修となるよう講師と綿密に打ち合わせをしながら、京都府内の福祉施設・事業所の組織力が向上することを目指します。本会と福祉職場が一丸となって福祉人材の育成基盤を築けるよう、今後も努力していきます。





夢中! 熱中! ふくしびと

だから続けたい この仕事

福祉の現場で働く人たちの熱い想い・メッセージを伝えるコーナーです。京都市内で「熱い福祉」を「夢中」で実践している方々にスポットをあてて、元氣や楽しさ、やりがいを「生」の声でお届けします。

大江 健太郎さん おおえ けんたろう

施設名 社会福祉法人 宮津市社会福祉協議会
〒626-0041

京都府宮津市宇鶴賀2085

HP/URL : <http://www.kyoshakyo.or.jp/miyazu/>

TEL.0772-22-2090 FAX.0772-25-2414

職種 : 地域課 経験年数 : 1年

★好きな言葉 : 全力投球

★夢中になっている事 : ソフトボール

繋がりを大切に!

外出支援サービス事業では、ご



★**仕事を始めたきっかけは?**
前職は介護職として介護の現場に携わってききました。そこで、地域の介護サービスがどれだけ重要な役割を果たしているかも実感しました。また、行政や各団体と連携しながら地域を支える、社会福祉協議会の仕事に興味を持ちました。これまでの経験を活かし、地域の誰もが安心して暮らせる地域づくりの一翼を担うことができたいと思います。

★**今後の目標・抱負は?**
まだまだ新人ですが、一人で任される仕事も増えてきました。仕事の内容を的確に把握して、何をどうすればよいのかを自分で考えて実行する力をつけていきたいです。上司や先輩から頂いた指摘やアドバイスを謙虚な気持ちで吸収して自分のものにしていきたいと思っています。

★**仕事の内容とやりがいは?**
普段の仕事は、ボランティア業務、災害ボランティア、広報活動、外出支援サービス事業です。平成30年7月、宮津市で大雨による災害が起き、約三百世帯が被害を受けました。宮津市社会福祉協議会では、宮津市災害ボランティアセンターを立ち上げ、被災された世帯へ復旧に向けた支援を行ってききましたが、改めて地域の方やボランティアのみなさんの協力が不可欠と感じました。担当として、災害の備えや発災した時どうするのか、日頃から、顔の見える関係作りを大切に、また、研修等を通して地域の方、職員と一緒に考えていきたいと思っています。

自宅から病院、病院からご自宅の送迎サービスの配車の担当をしています。ご利用される方に気持ちよく利用していただける様、日々努めています。

★**プライベートの過ごし方は?**
2人の娘と公園に出かけ全力で遊びます。また、地域のソフトボールチームに所属しており、年中、汗を流し楽しんでいきます。



参加者でにぎわうポスターセッション会場

基調講演では、華頂短期大学准教授の名賀亨先生から「地域づくりはみんなの力で」と題し、地域の活性化を目指すためには住民参加が必要不可欠であることやボランティア(参加する福祉)活動の意義をお話しいただきました。学生とともに参加している美山でのワークキャンプの事例を紹介しながらの講演は、参加者から「私も参加したくなった」という声があがっていました。

またポスターセッションでは府内各地から50団体が出展し参加者同士で交流する時間を持ちました。互いの実践を話してもらい、良いなと思った活動にはファンカードを送り合いました。「参考になった」「明日からも頑張ろう」という気持ちになったなど活



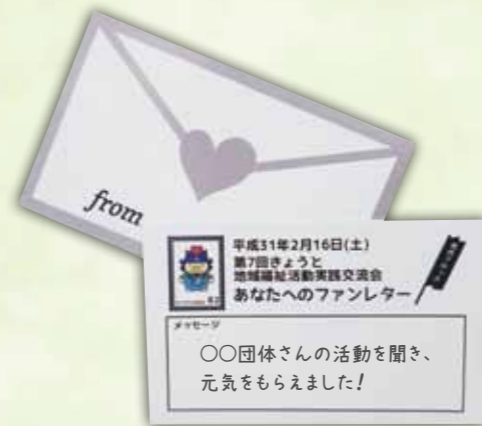
クロージング「地域のファンを作ろう」

気と笑顔が満ち、活動団体が別の団体のところを訪問するなど活動の輪が広がりました。



名賀 亨先生

次回は京丹後市で12月7日(土)に開催予定です。



ファンカード内 メッセージ例



あちこちで生まれた交流シーン!

2/16(土) ガレリア亀岡にて、第7回きょうと地域福祉活動実践交流会を開催しました。この実践交流会は、京都市内の各地域で活躍する地域福祉活動ボランティア活動の実践者が交流する場です。今年度は、南丹2市1町の地域の社会福祉協議会が主催し亀岡市にて開催しました。京都市内の各地から800名弱の実践者が集まり、盛況となりました。

第7回 きょうと地域福祉活動実践交流会

地域づくりはみんなの力で

京都府社会福祉協議会 からのお知らせ

案内

FUKUSHI就職フェア(合同就職説明会)のご案内

福祉の仕事に関心のある学生の方はもとより、一般の方も大歓迎！ 予約、履歴書は不要！ぜひご参加ください！

- 日時 5月12日(日) 12:30~16:30
- 会場 みやこめっせ(地下鉄「東山」駅下車 徒歩約8分)
- 対象 福祉職場に就職を希望する一般・学生(来春3月卒業予定)の方

FUKUJOBフェアのご案内

就職セミナー・面接会のセット開催！福祉の仕事を一日で、知って、就職までつなげられる絶好のチャンス！予約、持ち物は不要です。ぜひ、お気軽にお越しください！

- 日程 4月16日(火)
- 会場 ハートピア京都
- 内容
13:30~14:30
知って得するセミナー「福祉の仕事の将来を考えてみよう」
14:30~17:00
介護・福祉のお仕事 相談&面接会

【問い合わせ先】 京都府福祉人材・研修センター TEL.075-252-6297

平成31年度 福祉職のためのマナー研修

- 日程・会場
南部1コース：5月16日(木) ハートピア京都
南部2コース：5月28日(火) ハートピア京都
北部コース：6月4日(火) 市民交流プラザふくちやま
- 時間 10:00~16:30
- 受講料
会員：5,000円、非会員：8,000円
- 指導講師 京都保育福祉専門学院 学院長 岡本 匡弘氏

※詳しくは、下記までお問い合わせください。
京都府福祉人材・研修センター研修課
TEL.075-252-6296
<http://www.kyoshakyo.or.jp/event/>

第三者評価事業

受診事業所募集のおしらせ

京都介護・福祉サービス第三者評価等支援機構では、平成31年度の第三者評価受診事業所を募集しています。

受診を希望される事業所は、支援機構ホームページ(<http://kyoto-hyoka.jp/>)より「受診応募票」をダウンロードし、必

要事項を御記入の上、支援機構事務局まで郵送でお申込みください。

【問い合わせ先】

京都介護・福祉サービス第三者評価等支援機構(事務局：京都府社会福祉協議会)
TEL.075-252-6292 FAX.075-252-6310

安心して暮らせる地域づくりのパートナー 京都府社協では、賛助会員を募集しています！

本会は社会福祉法に基づき設立された社会福祉法人です。「福祉で地域づくり」を合言葉に、諸事業に取り組んでいます。ご理解の上、ぜひ本会の「賛助会員」としてご支援ください。

会費額(年額)

- 賛助会員 個人 1口5,000円、法人 1口10,000円で希望口数

<賛助会員の特典>

- 京都府社会福祉協議会発行の機関紙「京都の福祉」(年8回発行)をお送りします。府内の福祉の最新情報がお手元に届きます。
- 全社協出版部発行の福祉図書が割引価格で購入できます。
- 社会福祉大会など本会主催の講演会等のご案内を差し上げます。

賛助会員についてのお問合せ・お申込先
総務課 TEL.075-252-6291

HP <http://www.kyoshakyo.or.jp/introduction/introduction4/post-2.html>

平成31年度 社会福祉施設 総合損害補償

しせつの損害補償

インターネットで保険料試算できます

ふくしの保険 検索

老人福祉施設、障害者支援施設、児童福祉施設の

事故・紛争円満解決のために！

プラン1 施設業務の補償 (賠償責任保険、動産総合保険)

基本補償(賠償・見舞)

▶ 保険金額		基本補償(A型)	見舞費用付補償(B型)
賠償事故	対人賠償(1名・1事故)	2億円・10億円	2億円・10億円
	対物賠償(1事故)	2,000万円	2,000万円
	受託・管理財物賠償(期間中)	200万円	200万円
	うち現金支払限度額(期間中)	20万円	20万円
	人格権侵害(期間中)	1,000万円	1,000万円
	身体・財物の損壊を伴わない経済的損失(期間中)	1,000万円	1,000万円
お見舞い等	徘徊時賠償(期間中)	2,000万円	2,000万円
	事故対応特別費用(期間中)	500万円	500万円
	被害者対応費用(1名につき)	1事故10万円限度	1事故10万円限度 死亡時100万円 入院時1.5~7万円 通院時1~3.5万円
	傷害見舞費用		

保険期間1年

▶ 年額保険料(掛金)		基本補償(A型)
定員		
1~50名	基本補償(A型)	35,000~61,460円
51~100名		68,270~97,000円
100名以降1名~10名増ごと		1,500円
見舞費用(B型)	基本補償(A型) 保険料 +	【見舞費用加算】 定員1名あたり 入所：1,300円 通所：1,390円

- プラン2 施設利用者の補償
- プラン3 施設職員の補償 **改定**
- プラン4 社会福祉法人役員等の補償

◆加入対象は、社協の会員である社会福祉法人等が運営する社会福祉施設です。



です。
充実した補償と
割安な保険料

スケールメリットを活かした

◆クレーム対応サポート補償(プラン1-①オプション4) **改定**

●この保険は全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約(賠償責任保険、医師賠償責任保険、個人情報取扱事業者賠償責任保険、普通傷害保険、労働災害総合保険、約定履行費用保険、動産総合保険、費用・利益保険)です。

●このご案内は概要を説明したものです。詳しい内容のお問い合わせは下記までお願いします。

団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事 損害保険ジャパン日本興亜株式会社 医療・福祉開発部 第二課 保険会社〉
TEL: 03(3349)5137
受付時間：平日の9:00~17:00(土・祝日、12/31~1/3を除きます。)

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL:03(3581)4667 FAX:03(3581)4763
受付時間：平日の9:30~17:30(12/29~1/3を除きます。)